

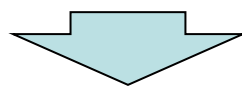
# 寒冷地の飼料用稲麦二毛作で迅速に 作目切り替えを行える「簡易耕同時播種法」

## 目的と特徴

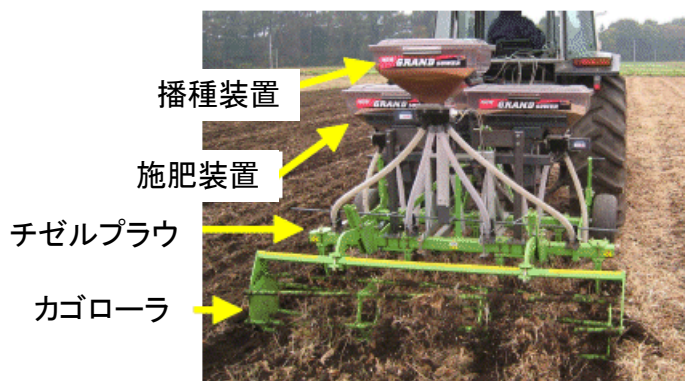
- ・「簡易耕同時播種法」は寒冷な東北地域で迅速な作目の切り替えを目的に開発した技術です。
- ・早生のイネとオオムギ品種を組み合わせることでWCSのダイレクト収穫が可能な作期を確保します。
- ・飼料用イネの無代かき、荒代かき移植栽培を組み合わせると、簡易耕同時播種の飼料用オオムギの収量性が向上します。

## 簡易耕同時播種法とは、

「チゼルプラウシーダー」を用いて耕起・碎土、施肥、播種の作業を高速に同時に行い、短期間で水稻から麦類へ作目切り替えを可能にします。

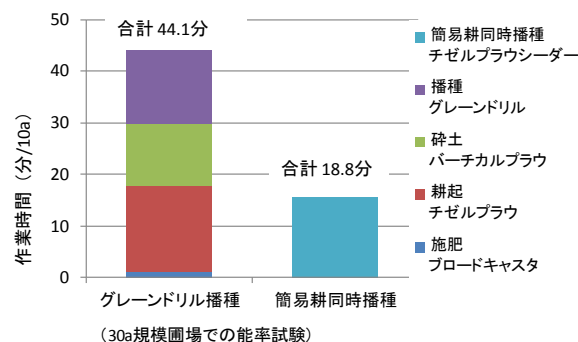


播種機は、市販のチゼルプラウと散布装置を組み合わせます



作業幅 (m)	2
チゼル プラウ	チゼル本数 7 耕深 (cm) 10~30
碎土・鎮圧	カゴローラ
播種 装置	最大繰り出し量(小麦時) (g/s) 75 ホッパ容量 (L) 65
施肥 装置	最大繰り出し量(化成肥料) (g/s) 170 ホッパ容量 (L) 130

播種作業時間を半減し、短期間に麦作への切り替えが可能です



## 成果

- ・チゼルプラウシーダーで簡易耕同時播種した飼料用オオムギの収量は慣行と同等です。
- ・育苗箱数を節減した飼料用イネとの二毛作で、実規模で年間乾物収量1.6t/10a以上を確保しました。

# 簡易耕同時播種法を導入した寒冷地の飼料用稲麦二毛作の作期

草種	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
飼料用イネ(移植)					○	○	○	○	○	○		
飼料用オオムギ					△	×				○		

注) ○: 播種または移植日、△: 出穂期、×: 収穫期

オオムギ簡易耕同時播種

飼料用イネの収穫後に簡易耕同時播種で飼料用オオムギを播種することにより、秋季の迅速な作目の切り替えが可能

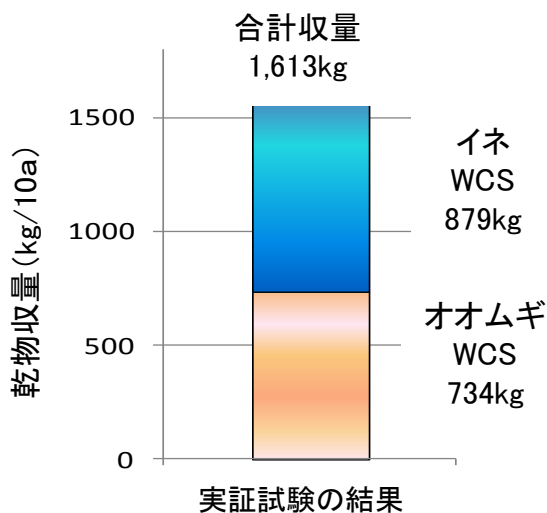
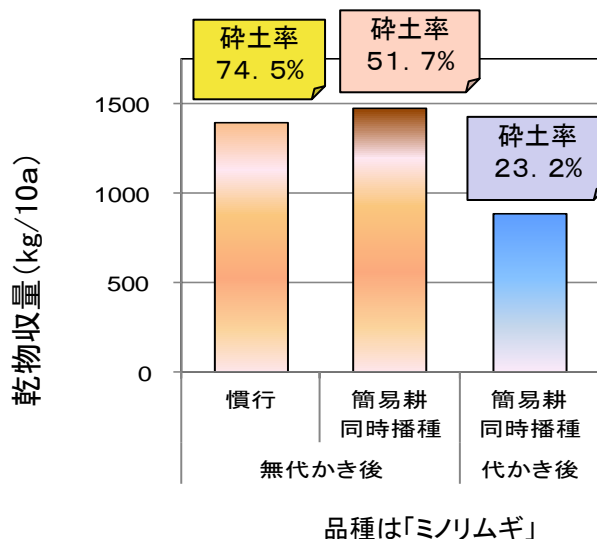
播種後1ヶ月後か融雪後に鎮圧作業を行うことで、圃場の均平化が図られ、土砂混入リスクを回避して、良質なロールベールサイレージを調製することができます



試験区	圃場内の凹凸の標準偏差
鎮圧無し	± 23.8mm
パッカー鎮圧	± 15.7mm

(収穫前に調査。n=100)

- ・飼料用イネの無代かき、荒代かき栽培後の飼料用オオムギは収量性が向上
- ・寒冷地の飼料稲麦二毛作で、年間乾物収量で1.6t/10a以上を確保



## 対象作物、普及対象

- ・飼料用オオムギ、飼料用イネ、北東北以南

## 対象農家

- ・水田の転作に粗飼料生産を取り入れている経営、粗飼料の増産に努めたい経営

## 必要な道具

- ・チゼルプラウシーダー (市販の施肥ユニット付きチゼルプラウが流用可能)

## 関連HP

<http://www.naro.affrc.go.jp/org/tarc/seika/jyouhou/H21/hatasaku/H21hatasaku001.html>